

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|-------------|
| 施設番号 | 66-0395 |
| 施設名 | 光明第六保育園 |
| 施設所在地 | あきる野市留原50 |
| 法人名 | 社会福祉法人多摩養育園 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【自然】畑

- ・様々な虫、生き物、食べ物、自然の音、自然物などに触れる。
- ・子どもたちが実際に土や野菜に触れ、定期的に畑作業に関わることで、自分たちの食している食べ物が育つ環境を知る。
- ・畑での野菜の栽培を通して、五感が刺激され、体や脳などの身体面、心地よさや意欲向上などの心理面の発達を促す。
- ・継続的に定期的に畑作業を行うことによって、野菜の生長を知る。
- ・収穫による達成感を味わう。
- ・自分達が育てた野菜を調理して食べることで、食に対する関心や食べる事への意欲を育む。

<テーマの設定理由>

豊かな自然環境に恵まれている自園だからこそ多様な保育活動に活かしていける「自然」をテーマとした。様々な虫、生き物、食べ物、自然の音、自然物に日々の保育の中で触れることができる環境にある。子どもたちの興味関心をより深めるため「野菜の栽培」を行い、探求心を伸ばした。五感の刺激により、好奇心がより深まり、友達と一緒にいることで、達成感は大くなる。みんなで協力してやり遂げた、分担した作業をしっかりとやり遂げることで、役にたったという満足感へとつながることを考え、自然のテーマの中の畑に取り組んだ。

2. 活動スケジュール

- ①大根の種植え（10月）
- ②大根畑のお世話
- ③大根の収穫（12月）
- ④ライブキッチン（1月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・大根の種
- ・ホットプレート（既存の物使用）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・大根の種を購入。自園の畑に植え、子どもたちと日々栽培活動を行った。
- ・収穫時期をむかえたら、子どもたちと収穫。
- ・給食での提供の他にライブキッチンを行った。大根を薄切りにしてホットプレートで焼き、栄養士お手製のタレにつけて試食。大根が普段苦手で食べない子もいつもと違う環境や事前の導入から進んで食べることが出来ていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・園の畑があるのは子どもたちも知っていて時折畑活動を一緒に行っているが、泥に触れるのが嫌だったり、室内遊びを選択する子が多く、頻繁に畑に行く、自分たちでしっかりと育てるなど、保育の中に食育活動が定着していかない。畑での栽培からライブキッチンまでを一緒に行い通すことで、食への興味を広げた。畑では、「大根って種からできるんだね」「早く大きくなって一食べたい」など意欲的な言葉を発し、進んで手伝ってくれる子が多かった。収穫では、自分の体ほどの大根を一生懸命に持ちあげて運んでいた。「こんなに大きいよ！みんな喜ぶかな？」と園にいる友達のことを気にかけている子もいた。
- ・ライブキッチンでは、子どもたちが進んで食べられるように子どもが好きな焼肉のようにプレートで大根を焼き、タレにつけて食べることにした。大根を普段食べない子が「大根おいしいね」と言っていて、職員も思わず笑顔になった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

実際に畑に行って、植えから収穫、そして食すまでの経験をすることで、ただ「食べる」という行為が、命をいただく、育てることで食すことができるという考えに結びつき、子どもたちの心情や意欲などが変化していく様子を感じられた。普段野菜などを苦手としている子ども自ら進んで食べる姿もみられ、このような食育活動の大切さを感じることができた。畑は五感をフル活用する「生きた素材」となる。今後も畑を通して子どもたちと一緒に食育活動を楽しんでいきたい。